

2016年度 自己点検・評価【文学部】

C票

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日:2017年2月23日

責任者	文学部長	作成部局	文学部
-----	------	------	-----

2021年度に向けた教育研究目標

【A票:教育研究目標1】								
(タイトル) 人文学の基礎を学び裾野を広げる。								
(狙い内容) 人間存在とその営みを深く学ぶことについての興味や関心を持つきっかけを与え、そこで生じてくる課題を人文学のさまざまな知を学びながら解決していく能力を育てる。								
1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標) 初年次教育および二年次教育の活性化に基づき教養教育と早期専門教育とが両立するシステムが構築・運用されている。								
<変更時記入欄>								
<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>								
2. 達成度評価							変更有無	
評価指標	現状における問題点の洗い出しと改善方策の構築と運用 課題の明確化と改善方策の構築と運用				評価尺度	A:運用 B:構築 C:準備 D:検討		有・無
	<変更時記入欄>					<変更時記入欄>		
3. 年度毎の目標値							変更有無	
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
2015年度 (計画策定時)		課題の明確化	Dをめざす	Cをめざす	Bをめざす	Bをめざす	Aをめざす	Aをめざす
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> D	実績	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> D				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 課題の明確化		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 検討中				
【2016年度の進捗状況について】 ←								有・無
明確になった課題の改善方法についてカリキュラム委員会を中心に検討を進めており、必要に応じて教員にアンケートを取り、学部長室委員会と教授会においても改善の必要性を説明しながら進めている。								
<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>								

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？	→	はい・いいえ
<上記で「いいえ」を選んだ場合>		
①理由:		
②今後必要な取組み:		

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 計画通りに進捗している。(B)
- ・ 順調に進展しています。(D)
- ・ より積極的な進捗が望まれます。(F)
- ・ 2016年度進捗状況の欄には、「明確になった課題の改善方法について・・・」とありますが、具体的にどのような課題が明らかになり、どのような改善策が検討されているのでしょうか？PDCAサイクルの運用状況、進捗状況を確認する上ではもう少し詳細な記述が望まれます。(G)
- ・ 人文学の基礎を学び裾野を広げるという目標について、具体的に言及され、適切であると思われます。(H)

【A票:教育研究目標2】

学際的な視点・発想の獲得とその伸張。

(狙い内容)

いくつもの専門に分れた学問領域が互いに影響・浸透し合う現場に触れさせることを通じて、広い視野としなやかな発想とをもって人文学的諸課題を受け止めていかれる力を育てる。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

学際的な教育ならびに研究を可能にする環境を多様な次元において構築する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	現状における問題点の洗い出しと改善方策の構築と運用 専修横断的な科目の再検討と充実化 国内および海外におけるセミナー・プログラムの構築と運用	評価尺度	A : 運用 B : 構築 C : 準備 D : 検討	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : B : C : D :	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		課題の明確化	Dをめざす	Cをめざす	Bをめざす	Bをめざす	Aをめざす	Aをめざす	
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> D	実績	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> D					
	見込 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 問題点の洗い出し		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 科目・プログラム を検討中					

【2016年度の進捗状況について】

演習科目や総合科目など専修横断的な科目について再検討を行った。また、SGUインターナショナルプログラムについては、検討段階をほぼ終え、準備段階に入る。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい ・ いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 進捗状況は概ね良好である。(B)
- ・ 順調に進展しています。(D)
- ・ 評価指標にある「問題点の洗い出し」、「改善方策の構築」等について、どのような問題点が洗い出され、どのような検討がなされているのでしょうか？PDCAサイクルの運用状況、進捗状況を確認する上ではもう少し詳細な記述が望まれます。(G)
- ・ 学際的な視点・発想の獲得とその伸張という目標をめぐって、具体的に叙述され、全体的に適切であると思われます。(H)

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)
自らが獲得した知の社会への発信

(狙い内容)
自身の学びを通じて得たものが何かを捉え直させるきっかけとして勉学の場を大学の外にも設け、社会への貢献という要素をも含んだ学問的素養の深化を図らせる。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)
専門分野において得た知識・技能を、社会における課題解決に能動的に応用する学生を育てる教育課程を確立する。学生は、専門知識・技能を応用して現実の課題の解決を試みることで、講義を通じて得た能力を深化させ、専門性と実社会との関連を学ぶ。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価		変更有無
評価指標	・受講生自身による実践力・応用力、達成度・充足度評価 ・受講生受け入れ機関による評価	A : ほぼ全員の極めて高い実践力・応用力 B : 受講生約80%の高い実践力・応用力 C : 約80%の高い達成感・充足感 D : 約80%の高い達成感・充足感
	<変更時記入欄>	
		評価尺度
		<変更時記入欄> A : B : C : 約60%の高い達成感・充足感 D : 約40%の高い達成感・充足感

3. 年度毎の目標値								変更有無
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	有 無
2015年度(計画策定時)	課題の明確化	Dをめざす	Dをめざす	Cをめざす	Cをめざす	Bをめざす	Aをめざす	
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	<実績>	見込み	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> D					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績>教育研究目標に沿って課題が明確に示された	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標>教育研究目標に沿って課題が明確に示され、通りに進行している。					有 無

【2016年度の進捗状況について】 ←

文学部が新たに構築した神戸文学館との連携によるハンズオン・ラーニング・プログラムは、2016年度秋学期にスタートし、順調に進捗している。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>
評価指標を示す数値が誤りであったため修正した。

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → **はい**・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・進捗状況は概ね良好である。(B)
- ・日本文学日本語学専修科目以外の科目にもこういったプログラムの要素が入ったものが増えていくことが期待されます。(C)
- ・順調に進展しています。(D)
- ・より積極的な進捗が望まれます。(F)
- ・評価尺度欄には、2016年度の進捗評価「D」は「約40%の高い達成感、充足感」とされていますが、具体的に2016年度の学生の達成感、充足感は何%だったのでしょうか？また、調査結果から今後の課題はどのように抽出されたのでしょうか？次年度以降の取組みへ繋げていくためには、今後の課題も明記しておくことが望まれます。
- ・自らが獲得した知の社会への発信という目標について、具体的に叙述され、全体的に適切であると思われます。(H)
- ・受講生の実践力・応用力、達成度・充足度評価は、どのように把握されるのか明記することが望まれます。(I)

【A票:教育研究目標4】

(タイトル)
他者の中で自分を開く

(狙い内容)
自分の周囲には自分とは異なる発想や考え方をを持った人がいることに改めて気付かせ、そんな他者と粘り強く対話を重ねていくことを通じて自己の人的成長の端緒を掴ませていく。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

学生が他者との交流・対話の中から多角的な視野を持った人間として成長するための教育・研究環境を構築する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	科目内容の再検討と充実化 フュージョン科目の構築と運用	評価尺度	A:運用 B:構築完了 C:準備段階 D:検討段階	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄>	有・無

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		課題の明確化	Dをめざす	Cをめざす	Bをめざす	Bをめざす	Aをめざす	Aをめざす	有・無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> D	実績	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> D					
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 課題の明確化		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 検討段階					

【2016年度の進捗状況について】

東アジア文化交流セミナーの実現に向けて企画運営委員会を立ち上げ、蘇州大学の学生を受け入れる融合科目の検討が進んでいる。また、留学生が韓国語・中国語クラスで日本人学生に語学を教えることを通じた交流や対話の実施も軌道に乗りつつある。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい・ いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 進捗状況は概ね良好である。(B)
- ・ 順調に進展しています。(D)
- ・ 順調に進捗しており評価できます。(E)
- ・ 科目内容の再検討と充実化という目標について具体的に叙述され、全体的に適切であると思われます。(H)

【A票:教育研究目標5】

(タイトル)

深い専門的知識と高度な思考能力との協同体制

(狙い内容)

小集団教育の重要性にも配慮しつつ、学生が自ら選んだ専攻分野について獲得した体系的な知と、仲間との切磋琢磨によって鍛えられた思考力とを接続させることによって、学修の集大成となる卒業論文の作成に向けて力を発揮できるようにする

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

卒論の提出率の更なる向上と質の確保のために、演習の小規模化をめざす。また、学部全体として卒論の評価の客観性を確保する。さらに、優れた卒論を表彰するなど、学生のインセンティブとなるような制度を構築する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	大規模演習の現状分析とそれに基づく対策 現状調査とそれに基づく対策の構築 制度の検討と構築、運用	評価尺度	A: 運用 B: 構築 C: 準備段階 D: 検討段階	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A: B: C: D:	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		Dをめざす	Cをめざす	Cをめざす	Cをめざす	Bをめざす	Bをめざす	Aをめざす	
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> D	実績	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> D					
	見込 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 検討段階		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 検討段階					

【2016年度の進捗状況について】 ←

カリキュラム検討委員会の議題にするタイミングについて、取り組み中である他の課題との調整を行っている。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取り組み状況の確認

2016年度の取り組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ (はい)・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取り組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・より積極的な進捗が望まれます。(F)
- ・教育研究目標5の進捗状況については、「検討段階」とありますが、2016年度の取り組みでは、具体的にどのような取り組みが進み、何が今後の課題なのか？
- ・深い専門的知識と高度な思考能力との協同体制という目標について、具体的に叙述され、全体的に適切であると思われます。(H)